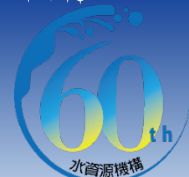


川上ダム通信

2022
12
月号



令和4年5月1日に
設立60周年を迎えました

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所

【名張事務所】☆お問い合わせはこちら

〒518-0413 三重県名張市下比奈知 2811-2 TEL: 0595-52-3690 (代)

【管理棟】〒518-0298 三重県伊賀市阿保 2171-12

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。

<https://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索
(右のQRコードを読み取っていただくと川上ダムホームページへ移行します。)



川上ダム公式 Twitter で工事の進捗状況やイベント情報を随時更新中!

https://twitter.com/jwa_kawakami



Vol. 209
Since 2005

ご意見・ご感想はこちらへ

<mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp>



令和4年度第3回安全協議会の開催

～伊賀労働基準監督署にご協力いただきました!～

当建設所では、工事現場の安全点検や受注者への指導などを目的として年に5回、安全協議会を開催しています。9月29日(木)に実施した今年度第3回目の安全協議会では、伊賀労働基準監督署から署長と安全専門官の2名にご臨席いただき、署長よりご挨拶を賜り、安全専門官による安全に関する講話をいただきました。

今回の安全協議会では、7月から9月に実施した安全パトロールで指摘があった危険箇所や推奨事例を共有しました。その後、建設工事の現場に向かい、安全パトロールを行いました。

安全パトロールでは、適切な資材の運用方法などの指摘事項ありましたが、現在は施工業者による是正を完了しています。なお、これらの指摘事項や是正内容は受注者へ周知し、同様の事象が発生しないように啓発しています。

当建設所において、令和4年度はこれまでに人身に関わる労働災害が発生していません。引き続き、ダムの建設事業完成に向けて、川上ダム安全協議会は今後も安全第一に無事故で事業が推進されるべく、活動に取り組んでまいります。



伊賀労働基準監督署長による挨拶のようす



工事受注者も安全パトロールに参加いただきました



安全パトロールのようす

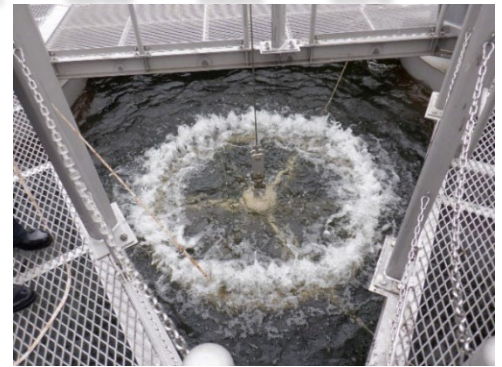
【工務課 山田 聖】

水質保全設備運転開始

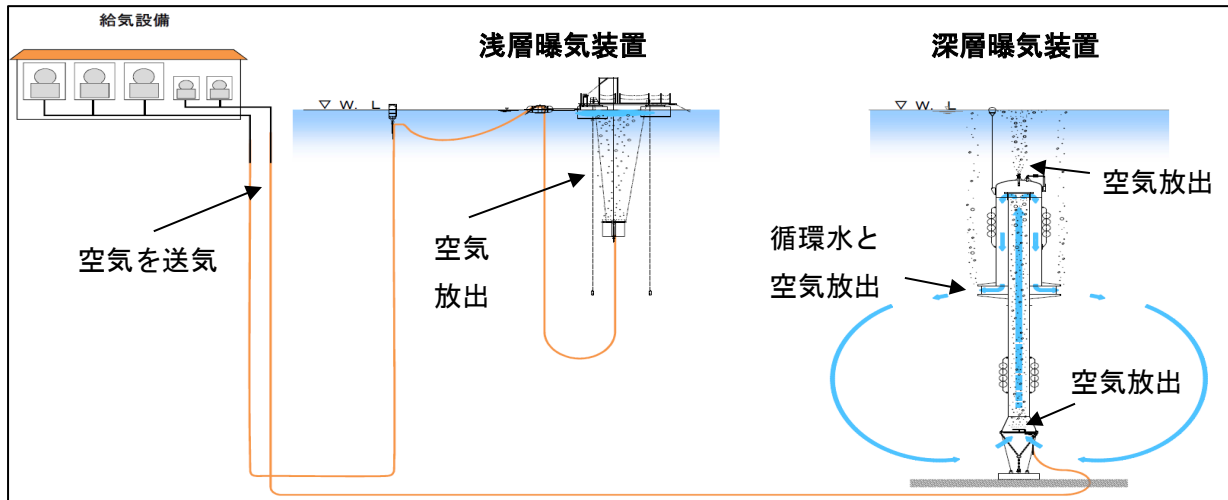
令和4年5月号 Vol. 201で紹介しました深層曝気装置、浅層曝気装置（曝気循環設備）の運転を開始しました。貯水池には、深層曝気装置2基、浅層曝気装置4基の水質保全設備が設置されています。

深層曝気装置は貯水池深部において、溶存酸素（DO）の減少により、湖底から水質悪化の要因となる栄養塩等が溶け出してくることを抑えるため、底層部に酸素を供給する装置です。

浅層曝気装置は、中層部から空気を放出しその浮力で湖水を上下に循環させる装置で、表層の水温制限効果や植物プランクトンへの光制限効果等により、植物プランクトンの異常増殖を抑制することが可能です。



浅層曝気装置の運転状況写真



浅層曝気装置と深層曝気装置の運転

【機械課 高橋慶太】

河川環境調査における魚類調査を実施しました

当建設所では、試験湛水開始の前年度である令和2年度から5年間についてモニタリング調査を実施中です。本調査は、調査項目についてデータを得ることで、試験湛水及び管理移行後に環境の変化を把握することを目的としています。

調査対象は、陸域環境、河川環境、水質等と多岐にわたっています。今回はそのうち、河川環境調査の一環で行っている魚類調査についてご紹介します。

調査範囲は、前深瀬川と川上川に加え、ダム貯水池、ダム下流約9kmの前深瀬川及び木津川までで、夏季と秋季に投網や刺し網により魚類を捕獲します。特定外来生物（オオクチバス、コクチバス）を除く魚類については、計測後すぐに元居た箇所へ放流しています。今年は夏にカワムツを含め30種、秋にカワヨシノボリを含め24種の魚を確認しました。また、貯水池内に特定外来生物は確認されませんでした。

当建設所では、これからも環境影響を把握するための調査を引き続き進めてまいります。



調査のようす



カワムツ（夏季の調査で確認）



カワヨシノボリ（秋季の調査で確認）

【環境課 川崎彩花】

種生神社秋祭りに参加しました

10月30日（日）、川上ダムの上流となる伊賀市種生地区の種生神社にて「種生神社秋祭り」が開催され、祭りの呼び物である「^{おわたり}渡御式」に当建設所より職員5名が神輿の担ぎ手として参加しました。

「渡御式」は、獅子神楽を先頭にお神輿、こたつき（帆を模した旗）、相撲旗、氏子の行列、だんじりが100メートル先のお旅所まで3往復練り歩きます。

種生神社のだんじりは船形をしており、山間部の神社のものとしては大変珍しいとのこと。また、勇壮な馬駆けと合わせ、伊賀の珍祭との呼び名もあります。

コロナ禍により実に3年ぶりの開催となり、当日の沿道にはこの日を待ちわびたたくさんの人が観覧に訪れていました。

筆者は人生初の神輿担ぎであり、想像以上に大変でしたが、地域のみなさんと一緒になって楽しむことができました。来年は、みなさんも訪れてみてはいかがでしょうか。



船形のだんじり



お祭りのようす

【機械課 土屋 颯】

近畿大学工業高等専門学校

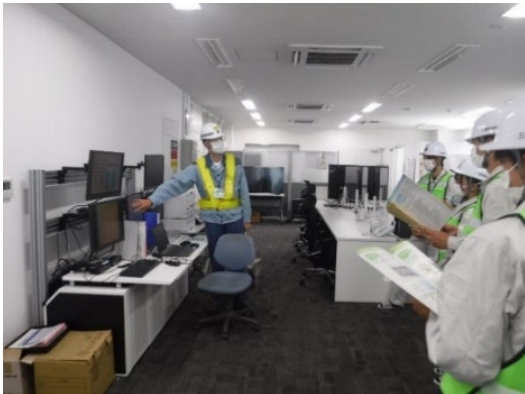
学生に向けて見学会を開催しました



10月21日（金）、近畿大学工業高等専門学校の学生約50名が、川上ダムの工事現場を見学しました。この見学会は三重県建設業協会からのご依頼ではありましたが、当建設所といたしましても、実際に工事現場に触れていただくことで、学校で学んだ土木や建築の知識のさらなる向上への寄与、また、将来を担う学生のみなさんに、ダム建設を始めとする社会基盤整備の大切さを伝えられる絶好の機会であると考え、歓迎の意をもって引き受けさせていただきました。

見学ではダムの目的等、概要説明から始まり、現在実施している試験湛水の状況や各設備の役割について説明し、ダム操作室やダム内部である監査廊を案内しました。学生のみなさんからは様々なご質問をいただき、こちらとしても大変やりがいのある見学会となりました。

この経験を通して水資源機構の仕事に興味を持っていただき、将来一緒に仕事をする仲間ができることを期待しています。



操作室での説明のようす



沢山の学生が見学に来てくれました

【総務課 奥野紗江】

試験湛水進捗状況

川上ダムは令和3年12月16日に試験湛水を開始しました。令和4年10月28日（16時）には、川上ダムの基礎地盤標高EL. 198.0mに対し、洪水期を除いて常時水が貯まる常時満水位EL. 262.0mに達しました。令和4年11月22日（9時）現在では貯水位EL. 263.94mに達しており、貯水率（最高水位までの貯水量31,000千 m^3 に対する割合）は61.3%（19,018千 m^3 ）です。



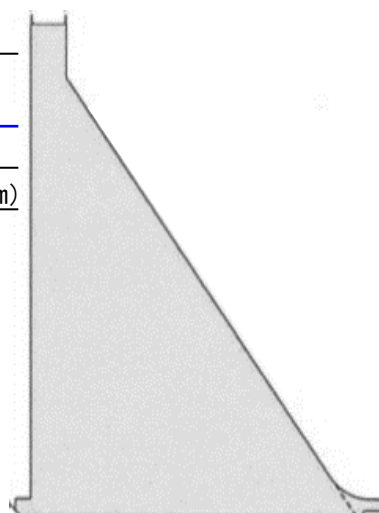
最高水位 (EL. 276.9m)

▼貯水位 (EL. 263.94m)

常時満水位 (EL. 262.0m)

洪水貯留準備水位 (EL. 260.7m)

基礎地盤標高 (EL. 198.0m)



【管理課 北爪 皓】

編集後記

今年も残すところ1ヶ月となり、日中も寒さを感じるようになりました。12月といえば、クリスマスや大晦日などのイベントが目白押しの季節ですが、皆さまはどのようにお過ごしになられるでしょうか。筆者は自宅で、クリスマスにはチキン料理を、大晦日には年越しうどんを作ったり、屋外でイルミネーションを見たりと一家団欒を楽しみたいと思います。

新型コロナウイルスについては刻々と状況が変化しておりますが、今できる楽しみ方を自宅内や屋外で探してみるのも面白いかもしれません。

【広報誌発行事務局】

編集長 津久井（所長）

デスク 田島（総務課長） 松浦（工務課長）

記者 奥野（総務課） 北爪（管理課） 近藤（用地課） 山田（工務課） 山下（工事課） 土屋（機械課）

